

ごあいさつ

未来社会の発展には、「人々の健康保持」と「地球の環境保全」が大きな課題であります。高齢化社会を迎えるにあたり、健康の保持・増進、医療・福祉の重要性は増すものと考えられますが、そのためにも地球環境の破壊・汚染の防止が必要であり、両課題は密接に関連し、将来の人類福祉を左右する重要課題であると認識されます。

「特定非営利活動法人 未来プロセス」は、より良き未来社会の構築に向けて、この二大課題に役立つ非営利的活動を国際的視野で展開し、貢献することを目的として設立され、積極的に活動して参りました。



NPO 法人 未来プロセス 理事長
谷 幸治

特に国内外の医療従事者に対する育成事業、医学・医療研究活動の助成ならびに国際学会の開催支援、市民に対する啓発活動、中国内蒙古地区の砂漠植林支援事業などに関しては、積極的・継続的に取り組み、成果を積み重ねて参りました。

2015 年度からは、新たに希少動物保護を目的とした国際的植林活動にも取り組み、マレーシアの NGO を支援するとともに、現地にて植林活動の研修を開催しました。

何卒「特定非営利活動法人 未来プロセス」の設立趣旨にご賛同いただき、その活動にご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

2018年7月吉日

会員募集

NPO法人
未来プロセス

私たちは医療の充実を図るためにさまざまな啓蒙活動を行っています。この活動に賛同いただける会員様を募集しています。より一層のご支援をよろしくお願いたします。

※ 申込みは入会申込書を郵送、FAX、メールでお送りください。
※ 当法人の活動に賛同し、ご支援いただける寄付についてもあわせてお願いします。

正会員

当法人の運営や企画に積極的に参加したい方。議決権があります。

入会金 10,000円
年会費 10,000円

賛助会員

当法人の趣旨にご賛同頂けるが運営や企画には参加しない方。議決権がありません。

入会金 100,000円
年会費 50,000円

私たちの活動は企業・団体様の支援に支えられています。

(掲載許可をいただいた企業・団体様のみ紹介)

- ▼賛助会員 (2018年度)
大塚製薬工場株式会社 様
株式会社 大和 様
ワタキューセイモア株式会社 様
株式会社 公益社 様
日本基準寝具株式会社 様
株式会社 トーカイ 様
株式会社 馬場酸素 様
三笠製薬株式会社 様
田辺三菱製薬株式会社 様
鳥居薬品株式会社 様
- ▼一般寄附 (2018年度)
株式会社バースジャパン関西営業所 様
コヴィディエンジャパン株式会社 様
株式会社藤木工務店 京都支店 様
(順不同)



未来プロセス通信

2018年7月発行 Vol.10

希少動物保護に向け、第2回マレーシア植林活動に取り組みました



ボルネオオランウータンの親子

昨年に続き、6月1日(金)～6月5日(火)にかけて、マレーシア ボルネオ島 キナバタンガン川下流域で、グループ職員6名が参加し植林活動を行いました。同時に、自然保護活動を学び、野生動物の観察を行いました。私たちが支援している現地の NGO HUTAN をご紹介いただき、当初からこの活動をサポートしていただいている京都大学 霊長類研究所の湯本 貴和 所長にもご同行いただき、周辺地域の自然の豊かさや希少動物保護に関する課題についてご説明いただきました。私たちは、2003年から自然環境保護のため植林活動をはじめておりますが、活動の信頼性・継続性の両面からマレーシアで活動中の NGO HUTAN の支援を決定し、今回3回目の寄付を行いました。

ウータン NGO(非政府組織)「HUTAN」の活動

活動の信頼性: 熱帯雨林における植林活動は、苗木を植えたその後の管理が非常に大切です。苗木を植えたその1か月後には苗木の周りは雑草が生い茂った状態になり、放置すれば苗木は100%死んでしまいます。NGO HUTAN では植物の知識を学び、トレーニングを受けた現地のスタッフが、植林サイトを毎月決まったルートで苗木の生育を促すための手入れをします。また300種以上の木々の生育や果実の付き具合などを歩いて調査して、動物の食べ物の量をモニタリングしています。すでに4つの森林再生区画に取り組み、オランウータン等希少動物が暮らすために必要な38種3万本の木を植林し、3～5年かけてメンテナンスを行い、80～90%の木々を定着をさせています。

活動の継続性: NGO HUTAN は、オランウータン研究の第一人者イザベル・ラックマン博士を中心に、ボルネオ島サバ州キナバタンガン川下流域での約20年間にわたる活動継続の実績がすでにあります。活動内容は、オランウータンをはじめとする希少動物の保護だけでなく、そこを出発点として、ゾウの保護・観察活動、森林再生区域のパトロール、植林、教育啓発、アナツバメの巣の産業復興、自然環境調査を約50名の現地雇用スタッフとともに組織的に展開しています。



▲NGO HUTAN 現地事務所へ寄付を贈呈

植林活動実績

- 2003年8月 中国内モンゴル地区クブチ砂漠にて第1回植林活動
- 2004年8月 中国内モンゴル地区クブチ砂漠にて第2回植林活動
- 2005年6月 中国内モンゴル地区クブチ砂漠にて第3回植林活動
- 2006年6月 中国内モンゴル地区クブチ砂漠にて第4回植林活動
- 2007年6月 中国内モンゴル地区クブチ砂漠にて第5回植林活動
- 2008年7月 中国内モンゴル地区クブチ砂漠にて第6回植林活動
- 2016年2月 京都大学 霊長類研究所にて NGO「HUTAN」に寄附
- 2017年6月 マレーシア サバ州にて第1回植林活動研修・寄附
- 2018年6月 マレーシア サバ州にて第2回植林活動研修・寄附

Think Local, Act Global!

自然環境の保護へ、行動することから始めよう!



京都大学霊長類研究所
湯本 貴和 所長

第2回マレーシア植林活動研修に参加された皆さんにはもうお分かりいただけたと思いますが、抽象的に物事を考えるだけでは大した意味をもちません。NGO HUTAN の活動報告にもあるように、植林を仕事として雇用の機会を提供することで女性の社会進出を支える、植林用の苗づくりを地域の家庭に委託して育った苗を買い取る、絶滅しかけていたアナツバメを増やしてツバメの巣の採取を復興する、子どもたちへ環境の大事さを教育する、そういった具体的な行動の連鎖が、人の暮らしも含めた森林の再生とそこに暮らす希少動物の保護につながっていきます。

まずは、今すぐに自分にできる【行動】を起こしてみてください。それがたとえ小さな、地域的に限定された行動でも、インターネットの時代では大きく世界へと発信されていきます。そして多くの人々が知ることによって「希少動物の保護を目指した植林活動」につながる行動の連鎖が生まれます。

オランウータンをはじめ、多種のサイチョウやトキ、テングザルの群れ、ボルネオゾウなど、これほど多くの希少動物に出会える場所は世界的にみても多くはありません。

まずは、現地で感じた思いを周りの方に伝えていくことから始めましょう。



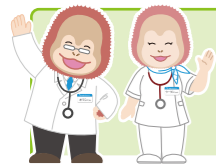
オランウータン



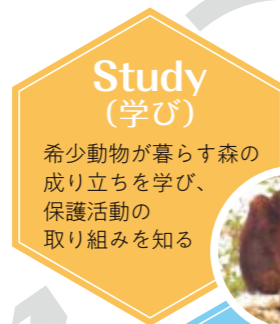
キタカササギサイチョウ



ボルネオゾウ



この活動は、「Study」「Research」「Volunteer」で構成されており、参加した職員の経験をグループの全職員で共有し、そして、広く社会に発信することで、希少動物の保護や環境保全に貢献していきます。



NPO 法人 未来プロセスは、発信力の強化に取り組みます。

NPO 法人未来プロセスでは、マレーシア植林活動をはじめ、地域での公開医学講座・健康フォーラムの開催による医療啓発など、様々な活動に取り組んでいます。この活動には、企業・団体・個人の皆様からの寄付や緑の募金箱を通じた皆様の善意など、多くのご支援を活用させていただいています。今後は私たちの様々な活動をヒューマンネットワークやパブリシティ展開を通じて幅広く社会にアピールすることで、希少動物保護を目指した植林活動、市民に向けた医療啓発を進めてまいります。



健康フォーラム



公開医学講座



「がん」をテーマとした公開医学講座

第2回 マレーシア植林活動研修 参加者の声



医療法人医誠会 本部 医療経営企画部
部長補佐 岩片 重樹

人間と動物それぞれ生活圏があり、人間が生きていくためにアブラヤシを植えたけれど、それが森林を壊していくならまた元に戻していかないといけない。可能な限り共存できるように努めないといけないと思う。昨年・今年2回参加しているので後続の人たちにバトンタッチし活動を繋げていきたい。



ホロニクスヘルスケア㈱ 看護師介護職員対策部
課長 半浦 茜

共存で一番大切なのは干渉すぎないことだと思います。野生のサルの仲間は、互いを攻撃しあうこともない、と湯本先生から教わったことが印象に残っています。私は採用担当で面接しており、求職者の方にも、この活動に賛同して一緒に働ける方がいらっやったら、どんどん活動が広まっていきたいと思います。



医療法人医誠会 本部 接遇サービス推進室
係長 井上 雅子

共生「共に生きる」とはということなのか学ぶため参加しました。自分たちが得た文明の力で自然を戻していく、共生していける環境下を作っていけたらと思う。日本に戻り、現地ではどういう状況が起こっているのか人に伝えることから始めたい。そして今回の植林が10年後どうなっているか見てみたい。



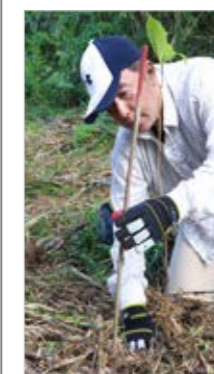
医誠会病院
看護部 富永 優

共存について、人間は人間の、野生動物には野生動物の生活があり、自然の森を人間は守りつつ植林をして森を増やし共存できる環境を自分たち自身でつくっていかねばならないと感じました。日本で今回の活動を伝え、機会があればまた植林など参加したい。



医誠会病院
看護部 寺田 悟

自分自身、何も知らない状況で植林に参加し現地に來ましたが、現在では国・政府をあげて森林を取り戻そうと、人と動物がうまく関わり共存できる環境をつくる努力をしているのを知り、体感できました。この活動自体を知らない人がたくさんいるので法人本部だけでなく、病院・施設の方たちもぜひ参加してほしい。



医療法人医誠 本部 医療広報部
課長 中内 修三

"Please, come back again. Anytime." 「いつでも、また、ここ(スカウ村)に帰って来てね。」イザベル博士が参加者の皆さんにかけた言葉に、ウルッと来てしまいました。湯本先生へのご協力依頼を含めてグループの総合力により実現したこの活動に、幅広くグループ職員がご参加いただければと思います。植林活動を含め、すべてが感動の連続です。